

# 広土会新聞

## 第22号

2018.3.1 発刊

発行所 広島工業大学 広土会  
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1  
TEL 082-921-3121

## 1年目を終えて



広土会会長

福原 輝幸

最初に重要なアナウンスがあります。今年度、広土会は設立50周年という大きな節目を迎えることになりました。卒業生はなんと4709名です。同事業は平成30年9月8日（土）に、リーガロイヤルホテル広島で開催されます。多くの皆様のご参加を心待ちにしています。

広島工業大学に着任して1年3か月が経過しました。卒業された方々の多くは母校に来られる機会が少ないといますので、現状がどうなっているのか少し紹介させていただきます。とは言っても私の狭い世界での見解なので、内容の不十分さをご容赦ください。母校とは言え卒業後40年ぶりに学生と接して、今までとは違う世界があることを実感しました。それは2つの点に要約されます。

1つは勉強に対する姿勢です。私が学生の頃、全体の70%ぐらいは学力入試で入ってきました。しかし今は80～90%の学生は推薦で入り、学力入試の経験がありません。だからでしょうか、90分の話が聞けない、また板書

してもノートを取らない学生が目立ちます。こうした学生が大半を占めるのですから、上述の行動に対して学生さんは何ら違和感がないのでしょうか。卒業研究が始まって、週に1回か2回ぐらい学生と合えば良いくらいです。卒論が始まって初めの1週間は学校に現れましたが、その後はいくら注意をしても2、3日で元の本阿弥です。問題解決能力を高めることができる手段としての卒業研究を理解しよう、考えよう、自分はこうしようという気はあまり無いようです。これではまずいでしょうと言うと、社会に出れば変わります、と返してくれるので、その言葉を信じたいと思います。

2つ目の特徴はバイト中心の学生生活です。何かを提案すると決まり文句は、バイトがあるので来られません、です。バイトで多くの人と接するので社会的な礼儀は弁えているのですが、実験後を見ると道具は投げっぱなしです。1つ1つ基本を教える必要があります。こうした学生でさえ、就職に困ることはありません。売り手市場を反映してか、大手、準大手の企業に入ることができます。

勿論、これとは全く対照的な学生もいます。昨年9月にアラブ首長国連

邦（UAE）に学生8人と1週間の研修を行い、UAE大学の学生、UAE人、在UAE日本人の方々と交流を持つことができました。気温40℃以上の砂漠で丸1日をかけて実験もしました。学生は自分で課題を見つけ、それを実行しました。これはHITチャレンジというプログラムの一環で行われました。学内関係者にプレゼンで自分の企画を発表し、採択されると大学から補助金が出る仕組みです。帰国後には工大祭でプロジェクトの報告をしました。学部の2年生にしては大変な行動力と積極性を持っており、「さすが工大生」と感じました。彼らと一緒に旅ができてとても有意義でした。

このように、今の工大生は2極化傾向にあるに思います。社会に出てからの工大生の評価と活躍を高めるためにはどのレベルに合わせた教育を行うのか、さらに2極化をどのように無くしていくのか等の難問に対して、学科は一同となって取り組んでいます。私ももっと学生に寄り添わなくては行けないと反省しています。

最後になりましたが、今年も広土会の発展のために同窓会と学科および学生との絆をより強めて行く所存です。同窓会の皆様、宜しくお願い致します。

総合建設業

 占部建設工業株式会社

代表取締役 占部 誠

本社 〒720-0816 福山市地吹町18番16号  
TEL(084)922-1254 FAX(084)922-1276  
広島支店 〒738-0004 廿日市市桜尾二丁目8番3号  
TEL(0829)32-1224 FAX(0829)32-8779  
井原営業所 〒715-0022 井原市下出部町二丁目22番4号  
TEL(0866)67-1300 FAX(0866)67-1215  
広島営業所 〒731-5135 広島市佐伯区海老園4-4-44  
TEL(082)921-2617 FAX(082)921-5443

明るく伸びる



株式会社 伏光組

代表取締役 伏見 光暁

本社 〒734-0013 広島市南区出島1丁目33番61号

TEL(082)253-6161 FAX(082)254-4581

(支店)松江 (営業所)三次

**KATO**  
Construction Co., Ltd.

 株式会社 加藤組

〒728-0013 広島県三次市十日市東一丁目8-13  
TEL(0824)63-5117 FAX(0824)63-5100  
<http://www.kato-gr.com>

## 新 任 挨 拶



### 新任のご挨拶

環境土木工学科 教授

竹田 宣典

2017年4月に環境土木工学科に着任いたしました「竹田宣典」でございます。よろしくお願い申し上げます。専門はコンクリート工学です。

大学院修了後、(株)大林組に入社し技術研究所に配属となって以来33年間、建設材料および施工技術に関する研究開発と工事の施工支援を行ってきました。研究開発では、コンクリートの長寿命化技術、調査診断や補修技術、マスコンクリートのひび割れ抑制などのテーマを担当し、実験を主体とした研究を行ってきました。また、工事支援では、明石海峡大橋、羽田空港新滑走路、長野オリンピックボブスレーコース、ドバイメトロなどを担当し、開発した新技術の適用や現場のトラブル対策などで、現場を駆け巡る日々を続けて参りました。

広島方面にも、新幹線新駅、西広島バイパス、LNGタンクなどの工事で幾度も訪れており、当時埼玉在住の小生にとって、海が見える美しい場所だと思っておりました。北九州の門司で生まれましたので、そのように強く思ったことを覚えています。研究開発および現場支援では、広島工業大学の卒業生の方のご支援を受けながら一緒に仕事をさせて頂いたことも多々あり、大変お世話になりました。

小生の専門とするコンクリート技術は、本四架橋、関空、東京湾横断道路、巨大ダム建設などのビッグプロジェクトとともに発展してきたとも言えます。このようなプロジェクトに多少なりとも携わることができ、研究者として幸運な時代であったと思います。昨今は、このようなプロジェクトが少なくなり残念な気もしますが、一方で、土木技術が貢献できる新たな課題が生まれてきています。巨大地震や気候変動による自然災害に対する「防災技術」、少子高齢化にともなう建設労働人口減少に対する「生産性向上技術」、既存構造物の老朽化に対する「インフラ長寿命化技術」、環境負荷低減のための「環境に配慮した建設技術」などです。いずれも重要な問題であり、土木分野にその解決が期待されている課題であると思います。

このような課題を克服してゆくには、やはり土木分野を担う人材の育成が重要であると思います。これまで携わってきた「ものづくり」の現場から、「人づくり」の教育現場に移り、土木の面白さと重要性を伝え、誇りを持って社会で活躍できる土木技術者の卵を輩出できるよう邁進していく所存です。

現在、学科内の就職委員を務めております。就職活動に関しましても、今後とも引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 退 任 挨 拶



### 退任のご挨拶

環境土木工学科 教授

熊本 直樹

桜花爛漫の候、広土会の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。

2012年(平成24年)10月に当時の都市デザイン工学科に勤務を開始してから瞬く間に時がたち、本年3月末に本学を定年退職することになりました。短い期間ではありましたが広土会の皆様にはいろいろとお世話になり、心から御礼申し上げます。

本学での勤務の思い出はたくさんありますが、その中の一つに教育懇談会や就職懇談会などの「きめ細かな指導・対応」があります。教育懇談会で学外会場へ行き保護者の方々と一緒に昼食をいただいたあと面談させて頂いたことや、懇談会のあとに同窓会の方々と懇親会に出席したことなどが強く印象に残っています。特に同窓会の方々と懇親会では、他学科の同窓会に比べて広土会の方々の結びつきがより強いと感じました。

また私が就職委員をしていたときにインターンシップの希望者が多くて大学の就職部の紹介だけでは行き先が足りないときに、広島建設青年交流会を通じてインターンシップの受け入れをお願いしたところ、広土会の方々を初め地元の建設業界の皆様のご協力を賜り、希望者全員がインターンシップに行くことができました。本紙面をお借りして、御礼申し上げます。全国の土木系の学科は衰退が顕著で「絶滅危惧学科」と言われていると日経新聞紙上で揶揄されることがありましたが、本学の場合は広土会や地元の建設業界の方々から種々のサポートを賜り、大変心強く思いました。

私の専門分野につきましては、2014年の広島豪雨災害対応と商工センターの長期沈下の研究が最も印象に残っています。前者では土木学会及び地盤工学会連合の調査隊員として調査・検討に従事し、自然の力を改めて認識しました。後者の軟弱地盤の変形問題は学生時代からのテーマであり、広島市から提供して頂いた40年弱の沈下データを広島在住の地盤工学技術者と一緒に検討し、その結果は地盤工学ジャーナルに掲載されました。この問題に一区切りをつけたという気持ちです。

最近では本学科への応募者が増え、喜ばしいことだと思っています。同世代の半数以上が大学へ進学する時代になり多様な学生が入学していますので、カリキュラムなど、教育内容をさらに検討して下さいようお願い致します。広土会の皆様及び本学科の益々の発展を祈念して、退職に当たってのご挨拶と致します。



### 退任のご挨拶

環境土木工学科 教授

中村 一平

広土会の皆様におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、5年前に中山隆弘先生の後任として、63歳で構造系の教員として赴任し、3月末で定年退職致します。

5年間という短い期間でありましたが、その間、広土会の皆様はもちろんのこと、広島工業大学の教職員の皆様には、お世辞ではなく本当にお世話になり感謝しております。

これまで、阪神高速道路公団27年間、国際協力事業団(JICA)2年間、金沢工業大学11年間を歴任しましたが、広島は瀬戸内の温暖な気候のためか接する方々の多くは穏やかで暮らすには最高の場所でした。

学生は気候の影響よりも、少子化やゆとり世代のために、大切に育てられ、われわれのような団塊世代が持っていた競争心やたくましさ欠けることが気掛りです。

少しでも、学生に気合を入れるために、授業開始前と終了時には「起立、礼!」を欠かさずに行いました。

また、構造力学という土木技術者が身に付けなければならない基礎課目を担当していたために、単位の認定を極めて厳しく行いました。

そのために、学生からは最も憎まれた教員と自負(?)しております。

学生も卒業して、世間の荒波に揉まれた時に、私のことを思い出し、理解してくれれば嬉しいのですが……。

さて、退職後、何をしようかと考えておりますが、まだまだ、気力は十分にあります。

奇妙なご縁がいろいろとあり、ベトナムのホーチミン市工科大学で働く機会を得ました。

使命としては、土木技術入門と建設工学、そしてビジネスマナーと日本事情を教えることです。

また、スタッフとして、日本企業との交流、共同研究、プロジェクト協働をすることになっております。

ベトナムの若者は日本や日本企業で働くことがステータスのようです。

ベトナムからの留学生は、昨年、中国からの留学生を抜いたとのことでした。

そのような事情により、今後共、広土会の皆様にはお世話になることが多々、あると思いますが、その際には、よろしくお願い致します。

話は変わりますが、日本人が外国で働くには多くの高い障壁があることを初めて知りました。ベトナムの場合、まず、VISA取得の前に、「労働許可証」を申請するのですが、警察で「無犯罪証明書」なるものも必要で、県警本部で指10本の指紋を採取されて、警察庁に照会し、発行された証明書を外務省で認証するなど手続きが極めて煩雑です。

ホーチミン市工科大学は、4月着任を希望されておりますが、ゆっくりと準備するつもりです。

最後になりましたが、今までのご厚情に感謝すると共に、今後共、ご支援・ご協力をお願いして退任のご挨拶とさせていただきます。有難うございました。



株式会社 神 崎 組

取締役社長 神 崎 文 吾

本 社 姫路市北条口三丁目22番地  
T E L 姫路(079)223-2021(代表)  
F A X 姫路(079)281-8191  
支 店 大阪  
事業所 敦賀・三木・岩国

心の映像カタチにします  
建設クリエイター

総合建設業



株式会社

栗本

代表取締役社長 前川 拓也  
〒793-0035  
広島市西区南観音7丁目14番20号  
T E L (082) 293-8500  
F A X (082) 295-8231  
【営業所】 岩国

<http://www.kurimoto-gr.co.jp>



株式会社 鴻治組

〒736-0082  
広島市安芸区船越南一丁目2番6号  
TEL : (082) 822-5211  
FAX : (082) 824-0675



## 母校での定年に感謝して

環境土木工学科 教授

小堀 慈久

広土会の皆様、ご健勝、ご活躍のこととお喜び申し上げます。

この度、教員を定年退職に当たり、役員の福原輝幸教授から原稿依頼があり、書かせて頂く事となりました。機会を下さり感謝いたします。

ここに、書きます事は、私なりに常に広島工大・土木の出身であることに、皆様と同様に意地と誇り持って、戦ってきた1卒業生の未熟な歩みの一端です。ご理解を賜りますなら幸いであります。また、人生の終わりに、母校で先輩達と共に学んだ充実した2年間であった事に感謝して、その感想を少し述べたいと思います。

私が卒業（2期生）した1970年は大阪万博の年で、高度成長期のさなかでしたが、就職はせず、恩師鈴木健夫教授のお世話になり、教員を目指した大阪市立大学では、三瀬貞教授のご厚意は忘れられません。原書の英訳の手ほどきを毎週土曜、夜遅くまで指導頂きました。研究員として実験の手伝い、講義の聴講等をして2年間を過ごしました。その後、呉高専の教員募集を恩師桜井季男教授から聞き、推薦を頂き助手として奉職致しました（1973年）。初任給は5万5千円でした45年前の事です。授業担当は、測量実習、土質実験、衛生工学実験でした。衛生実験は全く経験がなかったので、広大・土木の山口登志子助手（現・埼玉大学教授）の所へ夏、1ヶ月、通い後期授業に間に合せ、苦勞しました。それが縁で、広大の土質力学の網干壽夫教授の研究室で風化花崗岩まさ土の研究を始め、網干研の科学研究費3千5百万円が認められ、研究組織員25名の内の1人となる事が許されました。3年間の研究期間で多くの事を学びました。何より、顔ぶれは京大の柴田徹教授、芦田和男教授、阪大の松井保教授、神大の谷本喜一教授、愛大の八木則男教授、広大の吉国洋教授、理学部の柿谷悟教授等、土質工学会（現・地盤工学会）の重鎮であられる大教授方でした。その会議の末席に若輩者が入れられた事は感動の極みでした。網干壽夫教授には広大定年まで12年間の長きにわたり、門外漢の私に講義の聴講、現地調査等を懇切丁寧なご指導頂きました。

その後、先の研究組織がご縁で愛媛大学の八木則男教授のお世話で、タイ国のアジア工科大学（AIT）（国連により設立された大学院大学）の客員教授で1か月間土質力学の講義に行く機会が与えられました（1995年）。AITの実験装置のほとんどは日本の援助、寄贈でした。帰国前に王立タマサート大学など数校、訪問しましたが、実験設備など皆無で、日本との差を感じました。次の年に、八木教授の指導により、砂質土のせん断の研究「まさ土地盤における降雨斜面災害における経年変化と原位置力学特性の研究」で工学博士の学位を愛大から頂きました（1997年）。大学に8年通った成果でした。同じ年に呉高専に専攻科が

認可され、学内で教授に推薦され、国費留学を命じられました。行き先について、以前、土木学会の国際会議でお世話になった東工大の日下部治教授に相談すると研究仲間の米国のマサチューセッツ工科大学（MIT）のAndrew J. Whittle教授が実験の手伝いを求めていると言われ、推薦状を書いて下さいました。その年に広大経由で高専にインターネットが初めて開設されました。1997年の事です。国内のネット検索情報は今の千分の一もありませんでしたが、米国のネットには、すでに膨大な情報量があり、MITの情報、教授の情報、履歴、研究内容もすべて、今日の日本と同様な状況でした。お蔭で、メールで通信できたのは幸いでした。ただ、英語には苦勞しました。教授から、研究の目的や、学位論文の要約を20枚にまとめ1週間以内に送れ、など6回ほどの交信を2ヶ月続き、徹夜の連続でした。また、米国はアジア人の入国審査が厳しい頃だったので、ビザの手续に神戸のアメリカ領事館で2ヶ月掛かりました。取得したのは渡航の2週間前でした。

MITでは、大学院の講義の聴講が許され、1997年に行き1998年の春に帰るまで、聴講と実験の毎日でした。最初は英語がわからず、それでも宿題を出さないと次の講義への出席が許されなかったので、必死でした。帰る頃には言葉も何とか出来、電話もでき、買い物も楽しめ、休みの日はボストン美術館によく行きました。

帰国する時、土質力学の主任教授にお礼の挨拶に行くと、「最後まで厳しい講義に出たから」と褒めて、自分の講義録をコピー（ファイル3冊）してくれました。踊り気持ちで、深く感謝しました。教授はCharles C. Ladd教授です。他の教授からは「講義録は絶対、人に渡さないマル秘だ、小堀はラッキーだ」と羨ましがられました。講義録は我が家の宝になっています。また、留学中の研究をまとめた、「ボストン海成粘土のせん断特性」と、「定ひずみ速度載荷圧密試験（MIT型）の特性」の論文2本を私の指導教授のAndrew J. Whittle教授と共著で出すことが許され、帰国して国内（広大、京大）で発表しました。

日本に帰ると、高専での仕事や授業も忙しくなりましたが、学科主任を5年、主事を2年しました。主事は校長補佐役なので、会議は毎日のようにありました。地域貢献として、呉市や国交省中国地方整備局の審議会委員、広島高等裁判所の意見書作成、鑑定書作成、また、文科教科書検定審議会委員（工業高校の教科書審査）などを行いました。土木学会中国支部商議委員や日本材料学会地盤改良専門委員（約20年）を行いました。研究実績も求められ、論文発表、論文執筆、教科書執筆を行い、また講演会、講習会も数年毎に行いました。

呉高専に40年勤め2013年3月、定年退職（再雇用含め65歳）致しました。同時に審議の後、名誉教授を授与されましたが、これも多くの皆様のお蔭と感謝しております。

その後、島重章教授にお世話いただき、広工大専門学校（非常勤）で土木施工、道路工学を担当しました。学生達は、

思いのほか真面目で、明るく、大半が国家資格を合格して卒業し、よく頑張っている印象でした。専門学校では、学科主任の崎将智先生に大変なお世話になりました。

2015年の年末に鈴木健夫教授から「広島工大で学生支援する人を求めているけど、やってみない」と声を掛けて頂き、2016年4月 広工大 環境土木工学教授を拝命致しました。

学生支援アドバイザーと言う新しい役職として、講義はなく、最初は戸惑いましたが、新入学生の学習や生活の支援を行う事が主な職務であることが解りました。学生を指導するためには先ず、学生の顔と名前を覚える事が必要なので1年～3年までの授業のクラスに出席し、顔だけでなく、授業態度等をクラスの雰囲気を読み取る所から、仕事の準備を始めました。時折、授業の前に時間を頂き、学生に「大学生の生活とは」、「大学生としての自覚」、「人生哲学」「企業が求める建設技術者」等をパワーポイントで説明を致しました。

最初、特に大切な「人生哲学」として大学の建学精神「常に神と歩み、社会に奉仕する」について話しました。常に神と共に歩む、社会に奉仕するとは、東京・上野動物園のパンダのシャンシャンが大変な人気です。親熊のあふれる愛情と子熊の純粋な親への信頼、誰が教えたことでもない。まさに神の業です。私たちも同じです。親の愛に感謝し、親を敬う事、親から受けた御恩を社会の人々に奉仕してお返しする事。これが人生の基本哲学であり、建学の精神だと学生に説明しました。

また、今日の社会、特に世界の代表とされてきた技術立国、日本の権威が傾きつつある。偽装工作が目に見える。偽ってではない」とする神の掟に反する行為があまりにも目立つ。建設技術者を育てる本学の責務は重い。建学の精神を学生にしっかり伝えていきたいと思います。私は学生時代に洗礼を受け、以来、50年、礼拝は欠かさず、留学中もボストンの120年の歴史ある教会で礼拝を守りました。

他の「大学生の生活と自覚」の内容は、当たり前の事ばかりですが、意外と解っていません。1）大学は勉強する所。講義を休まない。2）アルバイトは最小限限度にする事。3）クラブ活動は勉強の息抜き。4）6時間の睡眠と朝食は取る。

このような学生指導のやり方に、教授たちの中に賛否があります。大学生に対してそこまでやる必要があるのか、自己責任である。の否定論と、一方、新入生に聞くと、大学で、どんなことを学ぶのか解らない者、将来の目的や夢のない者、それが8割以上います。きめ細かい指導が必ず必要である。とする賛成論とがあります。今日、少子化時代と、高学歴時代で、能力的、経済的、その他様々な状況の中で複雑多岐の学生が入学してくる。日本の教育事情としてそのような時代になってきている現実があります。これらの状況を、少しでも良き方向に導く、これらは学生支援アドバイザーの職務内容でもあります。また私学高等教育機関の役割でもあると私は考えながら務めて来ました。



山陽工業株式会社

SANYO CONSTRUCTION CO. LTD.

広島市中区十日市町1丁目1-9 〒730-0805  
TEL(082)-232-6471 FAX(082)291-2233  
http://www.landingsanyo.co.jp/

夢から感動へーハートテクノロジー



本社 〒135-0064 東京都江東区青海2-4-24

TEL 03-6361-5450

中国支店 〒732-0052 広島市東区光町2-6-24

TEL 082-205-5050



総合建設コンサルタント  
株式会社

株式会社コロコン

代表取締役社長

下花 眞二

本社 〒734-0011  
広島市南区宇品海岸三丁目13番28号  
TEL(082)250-8515(代表)

私自身、50 年前、福井（若狭高校）から来た田舎者を  
広工大が迎えてくれました。3 月末の入試は数学と英語の  
2 科目でした。この大学に入学し、初めて数学の面白さ、  
学問の面白さ、そして、土木工学の基礎を学びました。そ  
の頃は、当然、現在の補習授業などはなかったので、よく  
桜井教授、河内教授、岡野教授に質問に行きました。

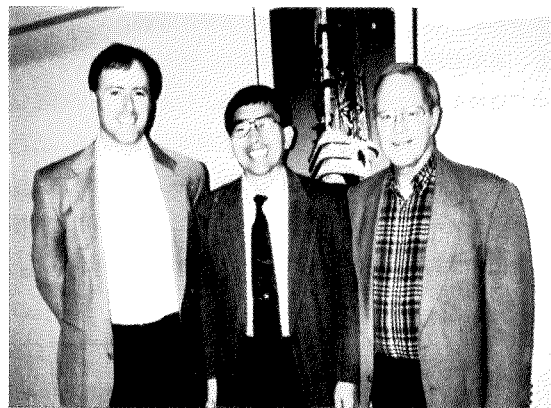
今日の様々状況の学生に対し、多様な対応が迫られてい  
ます。遅れている学生は補習授業（F P C）、学習支援室（楽  
ナビ教室）で学び直す。一方、進んでいる学生にはレベル  
アップ（発展トラック）制度がある。これは授業料免除  
等の優遇制度です。また、技術者として、「企業が求める  
建設技術者」を考えると、まず、学生に自信を持たせる  
事、その方法として、資格を取らせれば、本人のキャリア  
アップは自信になり、企業にもプラスにもなると思いま  
した。そこで、学習意欲のある学生の支援として、学科主任  
の石井義裕教授のご教示、ご理解を頂きながら、2 級土木  
施工管理技士試験（学科）及び技術士 1 次試験の講座を計  
画実施しました。2016 年は土木施工に 4 名、技術士の 1  
名合格してくれました。次の 2017 年は受験希望者が増え、  
2 級土木施工試験に 28 名、技術士 1 次試験に 5 名合格し  
ました。試験直前の 1 カ月は毎日行い、最後の 10 日は徹  
夜状態で学生がよくやりました。これも、環境土木工学科、  
先生方の日頃のご指導とご協力のお蔭であると感謝致して  
います。また、講座に参加していない学生が独学で技術士  
1 次で毎年 1 名、合格している事もあります。能力のある  
学生がいるのは嬉しいし、学ぼうとする前向き学生を更に  
伸ばす事、自分の能力に気が付いていない学生への支援も  
今後、必要になると思います。

今後も資格対策講座を継続できるよう、学科でも検討を  
お願いしている所です。

2 年の短い期間でしたが、母校での教育指導は貴重な経  
験で何にも代え難い充実した日々でした。この 3 月お陰様  
で何とかの第 2 の退職（70 歳定年）を迎える事となりま  
した。関係の皆様には本当にお世話になりました。厚くお  
礼を申し上げます。

広島工業大学、環境土木工学科、また、広土会の益々の  
発展、そして、先生方、会員の皆様の御健勝、御多幸を祈  
念し退職のご挨拶とさせていただきます。

（追伸）：現在、2018 年の資格試験の対策講座を始めてい  
ます。また、広土会の会員の方で資格を目指している方は  
ご連絡下さい。（090・2292・8473 小堀慈久）



Massachusetts Institute of Technology (MIT)  
Department of Civil and Environmental Engineering  
Prof. Andrew J. Whittle, Shigehisa Kobori, Prof.  
Charles C. Ladd  
マサチューセッツ工科大学 (MIT) 工学部 環境土木工学科  
Andrew J. Whittle 教授、小堀慈久、Charles C. Ladd  
教授（1998.3.25）

## 卒業生寄稿



### 近況報告

関東支部 6 期生

橋本 千代司

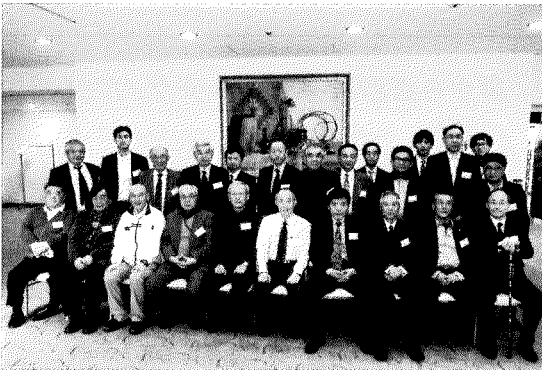
広土会会員の皆様、私は、関東支部で支部長をやらせて  
いただいております第六期（S 49・3 卒）の橋本です。  
卒業後、関東に上京就職し早や 42 年目を迎えております。

卒業後、その当時の特殊法人「日本住宅公団」（現、U  
R 都市再生機構）に就職し、H 24・3 迄、住宅団地開発  
に伴う、用地取得、造成計画設計、工事発注、工事監理そ  
して入居後の管理迄それぞれ携わりました。さらに、平成時  
代を迎え、都市再開発事業に係る基盤整備計画の立案及び地  
元合意を図る為の現地調整業務に携わりました。更に、「建  
替事業」（築 40 年以上経過団地）の屋外基盤整備計画の  
立案や、建替に伴う居住者の仮移転等調整をする建替事務  
所に勤務しました。振り返りますと、前半は、団地建設を  
行うハード部門に携わり、後半は、事業推進のための計画  
や事業実施に係る調整等を行う計画部門に携わり、一貫し  
て都市居住に関わるまちづくりに携わりました。公団とい  
う半官半民という事もあり、3 年毎に異動する中、特に、  
仕事関わる技術開発にも携わることが出来ました。それは、  
団地開発に伴う緑地の宅地化に伴う雨水流出増加による下  
流への洪水防御が課題として挙げられていました。このた  
め、団地に降った雨水をそのまま地中に浸透させる雨水浸  
透施設による雨水流出抑制法（雨水浸透工法）を当時の建  
設省（現「国土省」）土木研究所水文研究室と東大の水文  
研の指導を受けた技術開発に参画したことです。当時、雨  
水浸透施設に流入する土砂による目詰まりが最大の課題と  
して挙げられました。そこで、実際に開発した雨水浸透施設  
を設置した団地において、その流末で地区外流出量（抑制  
効果）を計測による効果の変化を長期間継続して観測（20  
年間継続）にも携わりました。結果、その流出抑制効果  
が維持することを証明しました。この成果を国際排水会  
議（米国）で成果発表しました。現在では水循環（地下  
水涵養）等環境問題にも寄与する効果も認められ、都市部  
で普及が進みました。仕事を通して世の中に具体的に役立つ  
技術で寄与できたことがうれしく、思い出されます。そし  
て、60 歳で定年退職し、現在、一財）都市農地活用支援  
センターに勤務しております。

さて、昨年 2 月 25 日都内において、第 24 回関東支部  
総会を、十河広土会会長（29 年度で勇退）をお迎えし  
開催しました。（今年は、H 30 年 2 月 24 日を予定）

関東支部は、現在凡そ 90 名の方に登録を頂いておりま  
す。支部の特徴として、地方から、在京勤務も方、在京か  
ら各地方勤務異動が多という事です。また、その方々のフ  
ォロが十分できていないことが課題として挙げられます。  
皆さんの中で、お知り合在会会員で異動等の方があれば  
ご連絡いただければ幸いです。

最後に、広土会の益々の発展と皆様のご健勝、ご活躍を  
お祈り申し上げます。



第 24 回関東支部総会（2017 年 2 月 25 日）



ぜひ！  
関西支部で会いましょう！

関西支部 27 期生

市川 武弘

関西におられる広工大卒業生のみなさま！ぜひ、4 月の  
花見会（夙川）や、9 月の関西支部総会（大阪市内）に顔  
を出してみてください。きっと、素敵な出逢いがあること  
でしょう。懐かしい気持ちにもなり、また、これからの人  
生に、「新たな気づき」があるかもしれません。私は、広  
工大から離れた土地で、多くの広工大卒業生が、共に、世  
の中で頑張っていることを考えるだけでも、なんだか、勇  
気が湧いてきます。

私は、平成 7 年 3 月に土木工学科を卒業し、「生まれも  
育ちも広島」から離れて、建設コンサルタント会社の関西  
支社に就職しました。主に、道路に関連する施設の設計業  
務を 17 年間勤めた後に、縁あって、今は、なんと生命保  
険会社に勤務しております。転職後も、変わらず良いご縁  
を続けて頂いている、建設コンサルタント会社の皆様には、  
とても感謝しています。気がつけば、「じきに広島に  
戻る気持ち」で、出てきた大阪を気に入って、住み着いてか  
ら 23 年が経ちました。

私は、数年前から、広島の実家に帰省するタイミングも  
合わせて、広島での広工大同窓会の総会に顔を出すことが  
ありました。その際に、先輩や先生から「広土会の関西支  
部にも出たら？」と、出席への道筋を立てて頂いたのがき  
っかけで、卒業後 20 年近くが経った、ここ最近から、関  
西支部の総会にも出席させて頂いております。

関西支部では、年に 2 回、集まりの会を設けております。  
準備をして頂く皆様には、ほんとに感謝です。近年では、  
15 名前後の集まりです。当然ですが、在学時には全く会  
うことのなかった、大先輩や、年の離れた後輩の皆様との  
宴会になります。世代を超えて、それぞれの職場環境、各  
業界の動向、在学時の大学の環境などを知ることになりま  
す。知らなかった情報や、学びもあります。また、広工大  
から先生にも出席頂くことで、最新の大学状況が聞けるこ  
とも、大きな喜びとなっています。先生には、遠路はるば  
るお越し頂き、感謝しております。

関西には多くの卒業生が活躍されていると思います。年代  
や、勤務先の業界も気にせず、もちろん、「何十年ぶり」でも、  
「卒業したばかり」でも、OK です。ぜひ、気軽な気持ちで、  
一度、参加してみてください。みんな、大歓迎です。

最後になりますが、今回、支部だより執筆の機会を頂い  
たことに感謝すると共に、これからも広島工業大学に関わ  
る全てのみなさまが、幸せでありますよう願っております。



2017 年 9 月の関西支部総会にて







## 近況報告

島根支部 27 期生

高木 正

全国の広土会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。私は、島根支部で副支部長をしております第 27 期（平成 7 年 3 月卒業）の高木と申します。広工大を卒業して地元の島根県に就職し、現在まで河川や道路などの土木行政に携わってきました。県の公務員ですので、地方機関へ勤務することも多いですが、転勤する先々で広土会の先輩方の指導や後輩達の協力を得て土木技術者として成長していることを実感しているところです。

現在私は島根県の隠岐諸島の一つ西ノ島町に勤務しており、そこで道路・砂防・港湾等の建設事業やダムを含めた公共土木施設の維持管理を行っております。

隠岐諸島の一つである西ノ島の地勢は、火山島であったことから、高低起伏が激しく、外海に面する部分は海蝕断崖の連続です。その中でも「国賀海岸」は隠岐を代表する景勝地であり、海面から 257 m の高さにそそり立つ摩天崖と呼ばれる断崖と日本海の雄大な景色は見るものを圧倒します。また、対照的に、丘の上では牛や馬が放牧されのどかな風景が広がります。

このような離島において、景勝地、国賀海岸へのアクセスルートにある『新国賀トンネル』建設事業に携わりましたので、近況報告として紹介したいと思います。

もともと、旧トンネルはありましたが、完成から 54 年を経て老朽化が進み、幅員も狭いことから、観光バスなどの利用に支障をきたす状況であったため、県では平成 20 年度より道路改良工事を進め、平成 29 年 8 月には延長 161 m の新国賀トンネルが完成し供用したところです。

トンネル工事の場合、掘り進めていくと想定外の地質に遭遇したり、湧水が出たりと施工方法の変更を余儀なくされることが常であるため、離島と言うハンデもあり、設計変更した際の資材調達をいかにロスなく行うか？日々注視しながらの工事でありました。結果的には、ほぼ想定どおりの地質であり、大きな設計変更もなく完成を迎えることが出来たことは幸いでした。

このトンネルの特徴は、両側の坑門形式が異なっており片側は多くのトンネルで採用されている「面壁型」ですが、トンネルを抜けた国賀海岸側は、国立公園区域内であることから、コンクリート面を極力少なくした周辺の地山と調和のとれる“突出型”を採用しているところです。

平成 25 年 9 月には、隠岐ユネスコ世界ジオパークとして認定されたことで、来島される外国人観光客も増加しており、今回の新国賀トンネルの完成によって、安全で通行しやすい道路となり、更なる地域の観光業の活性化や畜産業の振興に寄与することを期待しています。広土会会員の皆様も隠岐観光に来てみてはいかがでしょうか。

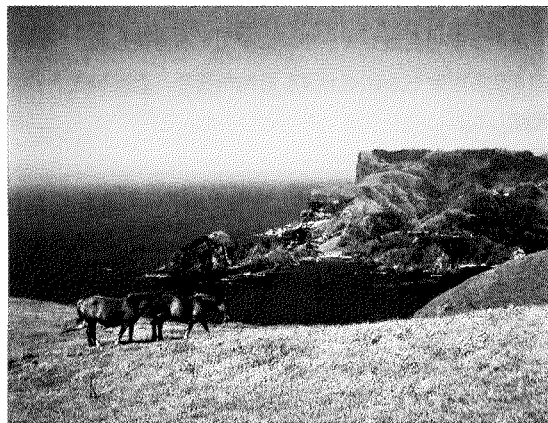
最後になりましたが、広土会の益々の発展と皆様のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。



国賀海岸側の坑門（突出型）



反対側の坑門（面壁型）



国賀海岸（摩天崖）



## 近況報告

県北支部 17 期生

加藤 雅規

この新聞が発行される頃、広島県北部では JR 三江線の運転がまもなく終了を迎えることでしょう。さて、我々広島県北支部は、國原支部長を中心に総会・懇親会を毎年 6 月ごろに開催して会員相互の親睦を深めております。特に一昨年の 11 月末には、三江線を利用して「ローカル線で行こう！紅葉の渓谷」と題した 1 泊 2 日の親睦旅行を行いました。

土曜日の朝 10 時ごろ快晴の中、三次駅を出発した三江線のディーゼルは紅葉も終わりがけの江の川沿いをゆっくりと進んだのでした。列車の前に立つと運転席と同じ目線で見ることができ、トンネルへ入る時と鉄橋を渡るときはスリルが味わえます。石見川本駅では約 1 時間半の停車時間があり、予約しておいた駅前のお寿司屋さんで 1 次会です。15 時ごろ江津駅へ到着、山陰本線の特急に乗り換

えて松江まで 1 時間半、その夜は松江泊まりです。今回初めて知ったのは、松江市民のソウルフードが「おでん」という事です。松江大橋を歩いて渡り、八軒屋町のおでん屋さんで豊富なメニューを美味しく頂き、伊勢宮町で楽しい夜を過ごすことができました。

日曜日は小雨ではありましたが、松江城の堀川遊覧船で風流を感じつつ松江城下を一回りしました。更に地ビールへ行ったメンバーは、帰りの電車で遅れそうになる始末。

帰りは伯備線生山駅まで特急のグリーン車を体験し、芸備線備後落合経由で三次へ帰着。

この旅の終わりごろにはもう、次は福塩線に乗りたいたいなどと旅の疲れを感じさせない言葉が飛び出していました。

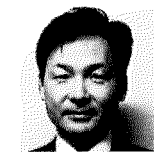
少子高齢化や人口の流出で地方の衰退が懸念されている昨今ですが、観光交流においては訪日外国人客いわゆるインバウンドの誘客には、この様な素の日本を体験できるコースが喜ばれると聞きます。

今、三江線の利用がピークに達していますが、「この様な周遊もできるよ」と英語で発信してみたいものです。ちなみに、外国人観光客向けの英語サイト「Get Hiroshima」は、日本人が見ても楽しめると思います。

建設現場では、ICT を活用した事業を推進しており、測量・建設機械のコントロールなど急速に普及しつつあります。特に今年は寒波が長居して広島県北部では、連日の除雪作業に四苦八苦しています。想像してみてください、雪で隠れた路面には飛び出したマンホール蓋など様々な障害物が隠れています。何のガイダンスも無しに除雪機械のブレードを路面に擦らすことができますか？

熟練オペレーターを補完するため、昨年から広工大との共同研究が始まっています。山間部の課題解決の一助となれば幸いです。

終わりに、広土会のご発展と皆様のご健康をお祈り申し上げます。



## 近況報告

広島支部 22 期生

石飛 和博

平成 2 年に卒業した 22 期生の石飛です。卒業後、広島市役所に入庁し、道路や公共交通、都心のまちづくりなどの担当を経て、平成 27 年度から「ひろしま西風新都の都市づくり」を担当しています。今回、機会をいただきましたので、現在の担当業務をご紹介します。

皆様からの信頼を財産に



八光建設工業株式会社

本社 〒732-0052 広島市東区光町 2-4-23  
Tel(082)262-8166(代) Fax(082)263-8189  
<https://hakkokensetu.co.jp/>

道路建設指針

建設大臣認定標壁

P.C.ボックスカルバート ザ・ウォール (H=5.0m)



株式会社 マシノ

本社 〒733-0822 広島市西区康平中 1-19-23 (082) 507-2757 (代)  
東広島営業所 〒739-2312 東広島市豊栄町別府 270 (082) 432-4132 (代)  
福山支店 〒720-0805 福山市御門町 2-5-39 (084) 925-8855 (代)  
山口支店 〒754-0002 山口県山口市小郡下郷 1130 (083) 973-3533 (代)  
山陰支店 〒695-0003 島根県江津市松川町下河戸 188 (0855) 55-0124 (代)  
本店 〒699-5133 島根県益田市神田町 615 (0856) 25-2380 (代)  
工場 広島・江津・益田



ヒューマン・コンシャス。  
それがわたしたちの原点です。

MASUOKA  
Architectural Contractors Inc.



株式会社 増岡組

広島本店 / 〒730-0045 広島市中区鶴見町 4 番 25 号 TEL 082-504-5050  
呉本店 / 〒737-0051 呉市中央 1 丁目 6 番 28 号 TEL 0823-21-1441  
<http://www.masuoka-g.co.jp/>

洋ようと 伸びのびと 夢をかたちに



洋伸建設株式会社

代表取締役 金山 健二

本社 〒730-0012 広島市中区上八丁堀 4-1 TEL(082)511-4520  
ア・バンビュ・グランドタワー 7F FAX(082)511-4521  
営業所 福山・呉・廿日市・山口・四国・九州  
事業所 黒瀬  
ホームページ <http://www.yoshibi-const.co.jp/>

西風新都の都市づくりは、市中心部から北西約5～10kmの位置に広がる約4,570haの丘陵地において、官民が一丸となって取り組んでいる大規模プロジェクトであり、都市づくりがスタートして30年近くを経て、「住み、働き、学び、憩う」の機能を備えた魅力ある都市に成長しています。（東日本大震災を教訓に平成25年に「護る」機能を追加）

居住人口は約2倍、従業者数は約5倍に増加しました。「学ぶ」機能では大学が3校も立地し、広島工大沼田校舎や昨年夏の甲子園で準優勝した広陵高校もエリア内です。

昭和40年代、未開発の開発可能地として注目されていた当地区では、民間開発事業者が土地の買収を進めるなど開発圧力が高まりました。その後、道路や上下水道などが未整備であることを理由に行政が開発を凍結した時期がありましたが、平成元年に本市が都市づくりの全体計画を策定して、計画的な都市づくりを進めていくことになりました。

平成2年の大塚業務地区（A.CITYのツインタワーがある地区）等の開発着工を皮切りに本格的な都市づくりがスタートし、アジア競技大会に向けて道路や上下水道等の整備が進み、平成6年には新交通システム「アストラムライン」が開業、平成13年には広島西風新都ICや広島高速4号線が供用されました。民間開発については、計画された16地区のうち、11地区が完成するなど、今日まで計画的な都市づくりを進めてきました。

現在も様々なプロジェクトが進行しており、2つのプロジェクトが、今春、大きな節目を迎えます。一つは、山陽自動車道沼田PAで整備を進めてきたスマートICの供用、

もう一つは、民間開発された石内東地区での大型商業施設（イオンモール）のオープンです。これらにより広域から西風新都に誘引する力が一層高まるものと期待しています。また、本市のインフラ整備では、環状道路の整備やアストラムラインのJR西広島駅までの延伸などにも取り組んでおり、平地部では地域住民主体のまちづくりが展開されています。この西風新都が活力あふれる都市になるよう、引き続き、尽力していきたいと考えています。

最後になりますが、広島工業大学並びに広土会の今後益々の発展をお祈り申し上げます。



## 近況報告

広島西支部 12 期生

長谷山 弘志

こんにちは、広島西支部長の長谷山（12期生）です。平成29年度の支部総会は、10月14日（土）、宮島コーラルホテルで、総勢31名と久しぶりに盛大（？）な開催となりました。支部総会に先立ち、広土会支部長会議が行われたため、福原広土会会長、大東副会長をはじめ、本部役員、各支部長にもご参集頂きました。また、初めて参加する西支部の会員や久しぶりに参加する会員もあり、例年の15名前後を大きく上回る参加状況で、近況報告や思い出話などに花が咲き、あっという間に時間が過ぎていきました。

そして、会の終わりには、次期支部長の河崎さん（15期生）から、来る平成30年9月8日（土）開催予定の広土会50周年記念事業に向けて、心強い言葉もあり、良

いイベントにもなったように感じました。

皆様も実感されていると思いますが、戦後の経済成長・人口増加と共に発展・拡大し続けた市街地や集落が一転して、スポンジのように空き家・空店舗・低未利用地が目立ち始め、市街地では賑わいが失われ、中山間地域では集落が消滅していく危機的状況となっています。都市計画制度も方向転換せざるを得なくなり、護るべきものと再生すべきものの適正を判断しながら、都市施設や居住エリアをコンパクトに配置し直す取組みが進み始めています。同時に都市部でも中山間地域でも、エリアマネジメントの手法を積極的に取り込んで、主体を官から民へ移行させながら、官民学が連携して地域の付加価値を高め、収益性のあるまちづくりをいかに進めるかが問われる時代となっています。公私共にこのような時代の渦中で、足掻き続ける日々を過ごしています。

皆様に支えられながら4年間に亘り、支部長を務めさせていただきましたが、平成30年度からは、新支部長へバトンタッチすることとなりました。最後の年に、支部長会議の担当幹事を7年ぶりに当支部で担うことができたことは、とても良い思い出となりました。といっても、50周年記念事業の実行委員会にも加えていただき、これからは、一人の幹事としてお役に立ちたいと考えておりますので、引き続き、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、母校のますますの発展と同窓生の皆様のご健勝・ご活躍をお祈り申し上げ、近況報告とさせていただきます。

# 広土会50周年記念事業

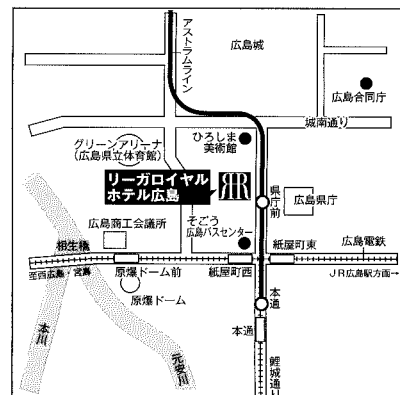
・開催日：平成30年9月8日（土）

・場 所：リーガロイヤルホテル広島

広島市中区基町 6-78

・詳細は下記の広土会 HP を参照してください。

<http://www.kodokai1968.jp/>



## 事務局だより

広土会の活動は会員の会費納入で運営されています。

来年度以降は会費未納あるいは期限切れの会員には広土会新聞の発送を行いません。

会費未納あるいは期限切れの方はこの点を御理解いただき、会費の納入をよろしくお願い致します。

今年度は広土会創立50周年記念祝賀会が開催されます。退職された先生方にもお声をかけ、楽しいひとときを過ごせるよう企画しております。会員の皆様もお声を掛け合い、多くの皆さんの参加を期待しております。

また、広土会新聞は会員の情報誌です。今年度は、10期生－10周年、20期生－30周年、30期生－20周年、40期生－10周年を迎えます。記念祝賀会等が行われる場合には事務局にご連絡をいただければご協力いたします。

皆様からの情報、ご意見、ご感想をお待ちしております。FAX、またはメールでご連絡下さい。

FAX (082) 921-8976

E-mail : kodokai@cc.it-hiroshima.ac.jp